

第24回 ITS世界会議

24th World Congress on Intelligent Transport Systems in Montreal

和泉範之¹ 絹田裕一² 牧村和彦³

By Noriyuki IZUMI, Yuichi KINUTA and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

ITS世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) は、欧州 (ERTICO)、米州 (ITS America)、アジア太平洋 (ITS Japan) の世界3地域のITS団体が連携して、毎年共同で開催する会議である¹⁾。2017年は、第24回目の会議がカナダのモントリオールにて、10月29日～11月2日の日程で開催された。本稿では、その概要を報告する。

モントリオールは、1976年の冬季オリンピックが開催され、会場跡地はオリンピックパークとしてスポーツ施設や植物園、展望台などとして現在も多くの市民に利用され、地下鉄やバスネットワーク、バイクシェアリング、道路ネットワーク等、最先端の交通サービスを誇っている都市である。



写真-1 多くの市民や観光客で賑わう
モントリオールのオリンピックパーク

2 第24回ITS世界会議の概要

第24回ITS世界会議は、モントリオール国際会議場にて“Next Generation Integrated Mobility Driving Smart Cities”「スマートシティを加速する統合モビリティ」というテーマにて開催された。会議には、65ヶ国から約8千人が参加した²⁾。

(1) 展示発表

展示発表には、約300の団体が出展し、各国の行政機関、国際団体等によるITS関連施策の紹介や、自動車メーカー、電気機器メーカー、情報関連企業等による自社の関連技術の展示が行われていた。

展示発表では、自動運転を行うための車両や、パーソナルモビリティのための車両などの新たなモビリティに関する展示を多く見かけた。各国において自動運転にて運用するための車両等が開発されており、今後の自動運転市場における主導権を巡る競争を垣間見た場であった。



写真-2 英国主導で開発されている無人運転

(2) セッション

セッションは、4つのプレナリセッション、12コマのエグゼクティブセッション、121コマのスペシャルインタレストセッションが開催された。

スペシャルインタレストセッションでは、「スマートシティ」や「Maas (Mobility as a Service)」などをキーワードに、ITSという手法から、都市を対象とした交通問題をターゲットとした議論が数多く行われていた点特徴的であった。

¹交通・社会経済部門 研究員 ²交通・社会経済部門 グループマネジャー ³業務執行理事、研究本部企画戦略部長 博士(工学)

(3) テクニカルデモンストレーション

会場周辺の公道などを活用し、数多くのデモンストレーションが実施されていた。その中の自動運転バス「Keolis: Ride on Keolis' Autonomous Navya Shuttle」に試乗した。

Keolis(ケオリス)は、世界を市場に公共交通運営に關するグローバルオペレータとして活躍しており、フランスNAVYA社の無人運転のデモンストレーションを行っていた。完全な無人運転ではなく、運転手が同乗していた(世界で初めて無人運転の免許を取得した方が同乗していた)。フランス・リヨンやスイス・シオン等では既に1年以上の運行実績を誇っており、VIPや業界関係者が一同に集う場所でのデモレーションやプレゼンテーションは我が国でも学ぶ点が多い印象を受けた。車内はすべてが乗客のためのスペースとなっており、外側から見るよりも車内は広く感じる。前後対称のデザイン、電動化された車両、遠隔監視技術など、現在の課題やニーズを踏まえたトータルなデザインは参加者の多くの関心を集めていた。



写真-3 会場周辺での無人運転バスデモンストレーション

(4) 当研究所による発表

当研究所からは、高山市街地の観光繁忙期において頻発する渋滞に対する交通まちづくりの取組みの一環として実施したWi-Fiパケットセンサーの適用性に関する内容について絹田主任研究員が発表を行った。

高山市街地では、観光繁忙期において市街地部を通過する国道を中心に激しい交通渋滞が発生していることが課題であった。この交通渋滞を解消するためには特定の経路へ集中する交通の分散や、混雑の少ない時間帯への誘導、滞在時間を増加させる取組みなどが有効であると

考えていたが、人の行動実態を把握するための根拠となるデータが存在しない問題があった。そこで、観光客の行動実態を把握するためにWi-Fiパケットセンサーを活用し、その適用性について検討した結果を発表した。

Wi-Fiパケットセンサーから得られる移動履歴データの適用性を検証した結果、人の流れの変化、滞留の変化等を可視化し、施策の効果を把握できることが確認できた。一方、Wi-Fiパケットセンサーのデータを活用する上での技術的課題として、交通手段に関わらずに取得されるデータのため、分析対象データを分類するためのノウハウの蓄積が必要であることも確認されており、今後も継続した検討を行う予定である。



写真-4 当研究所研究員による発表の様子

3 おわりに

今回の第25回会議は、デンマーク・コペンハーゲンにおいて2018年9月17日(月)～21日(金)の日程で開催される。コペンハーゲン市は2025年までに世界でもっともCarbon Neutralな首都になることを目標に、交通安全や環境・渋滞対策に取り組んで成果を上げている都市である¹⁾。会議テーマは、「ITS - Quality of Life」と設定されており、活発な議論がなされることが期待される。

参考文献

- 1) ITS JAPANウェブサイト, <http://www.its-jp.org/>
- 2) 第24回ITS世界会議ウェブサイト, <http://itsworldcongress2017.org/program/>